



愛と健康の

かけはし

No.44



編集・発行 情報委員会

神戸朝日病院

住所：神戸市長田区房王寺町3丁目5-25

電話：(078)612-5151

URL: <http://www.kobe-asahi-hp.com>

診療科目

- 内科
- 消化器内科
- 肝臓内科
- 循環器内科
- 呼吸器内科
- 神経内科
- 外科
- 整形外科
- 消化器外科
- 放射線科
- リハビリテーション科
- 肛門外科

専門外来

- 腎臓内科・泌尿器科
- 糖尿病内科
- 皮膚科
- 在宅医療
- 人間ドック
- 健康診断
- 医療相談

診療時間

【午前診・月～土】
 受付 8:10～12:00
 診察 9:00～

【午後診・火 内科のみ】
 受付 14:00～16:30
 診察 15:00～

【夜間診・月、水、木、金】
 受付 17:00～18:30
 診察 17:30～

※ただし急病患者については時間制限なく診療いたします。

- 兵庫県肝疾患専門医療機関
- 日本肝臓学会認定施設
- 日本消化器病学会認定施設
- 日本消化器内視鏡学会認定施設
- 日本内科学会認定教育関連病院
- 臨床研修病院指定
- 日本医療薬学会研修施設
- 薬物療法専門薬剤師研修施設
- 日本静脈経腸栄養学会認定NST稼働施設
- 日本栄養療法推進協議会NST稼働認定施設

医療人としての能力向上をめざして

—山中教授ノーベル賞受賞によせて—

院長 金守良



●2012年は日本の医療界にとって記念すべき特別な年になりました。いうまでもなく、京都大学 山中伸弥教授のノーベル医学・生理学賞受賞です。遅ればせながらお祝いの言葉を申し上げます。受賞にあたっての山中教授のインタビューで私が最も印象に残った言葉は、「夢を実現するためには、厳しい訓練が必要である」という言葉です。勿論、夢はノーベル賞受賞ということではなく、難治性疾患克服のため、iPS細胞（人工多能性幹細胞）の発明です。

●さて、当院は開院当初から医療水準の向上をめざして、『最新医学の成果をとり入れ、患者に最高の医療を提供する』という目標を掲げ活動してきました。そして現在、日本内科学会認定教育関連病院、日本肝臓学会・日本消化器病学会・日本消化器内視鏡学会の認定施設、兵庫県肝疾患専門医療機関、神戸大学臨床研修協力病院、日本医療薬学会および薬物療法専門薬剤師の研修施設、日本静脈経腸栄養

学会および日本栄養療法推進協議会のNST稼働認定施設です。しかし、それはまだ初級段階であり、通過点でしかありません。上記の到達点を踏まえ、当面、当院の目標とするのは日本内科学会教育認定病院です。神戸市内の民間病院では、川崎病院、甲南病院、神鋼病院、百年記念病院、三菱神戸病院の5病院が教育病院の認定を受けています。が、いずれも70年以上の歴史をもつ地域の中核医療機関です。日本内科教育病院の認定を受けることは、医師分野だけでなく、看護師、薬剤師をはじめとする全医療職の分野で教育研修ができる病院として質的に転換することを意味します。

●そうした目標を達成するためには、当院の職員にあつては、山中教授が言われるように厳しい訓練を自らに課し、目的意識的な能力向上が求められます。

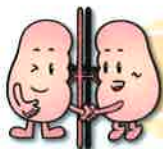
●能力向上のための活動は自発性が基本です。そうでなければ活動は長続きしません。ただ、私は医療人としての能力向上、言い換え

れば、自己実現に対する欲求は本能的なものであると考えます。

●一方、医療人としての能力向上においては、具体的目標の設定が必要です。分野は異なりますが、プロ野球の落合博満中日ドラゴンズ監督は「采配」という本の中で、中日ドラゴンズがセ・リーグで優勝し続けるためには、全選手の10%～15%のスキルアップ（能力向上）が必要だといっています。単に「練習する」ではなく、具体的に「10%～15%スキルアップ」するための練習が必要だと述べています。大切なのは「具体的に」であることです。

●すなわち「目標は高く、日常活動は具体的かつ着実に」です。

●創立25周年を来年に控えた当院においては、医療人としての能力向上のための自己訓練と自己啓発活動を今後も粘り強く継続していく考えです。そのことは、当院が地域社会から全面的に信頼される病院として発展することにつながるものと信じています。



シリーズ 腎臓

その3

腎臓内科 齊藤 純

腎臓の病気

腎臓の病気を大きく分類すると、腎炎、ネフローゼ症候群や慢性腎不全などの腎臓内科や小児科で扱う病気と、腎癌や腎結石などの泌尿器科で扱う病気に分けられます。両方の科にまたがる、例えば、嚢胞腎や腎盂腎炎などもあります。血尿が出ているからといって腎炎とは限らず、腎結石や腎癌の可能性もあるわけです。このように腎臓の病気と言っても全く性質の異なる病気が存在します。

内科で扱う腎臓病とは？

最も多いのは腎炎です。腎炎と言っても1つの病気ではありません。腎臓の中には様々な場所があり、障害される部位によって糸球体腎炎や間質性腎炎などがあります。糸球体腎炎でも急性と慢性があり、慢性糸球体腎炎と言っても多数の種類があります。また、他の病気、例えば糖尿病、痛風、高血圧、膠原病などによって起こる腎臓病もあります。

泌尿器科で扱う腎臓病とは？

本来、泌尿器科は腎臓病に関しては腎臓の外科です。腎結石が最も多い病気ですが、最近では結石破碎装置が開発され、手術を要する患者さんは少なくなりました。しかし腎癌は手術などの外科的な治療を要することが多く、泌尿器科に紹介されることとなります。

小児科で扱う腎臓病とは？

腎臓内科や泌尿器科で扱う腎臓病のほとんどは小児でも見られます。またこれ以外に小児科特有の腎臓病もあります。

尿路結石について

今回は泌尿器科で扱う腎臓病の中で頻度の高い尿路結石について説明します。

罹患率はこの30年間で約2倍に増加し、年間罹患率は人口10万人に対し80.9、生涯罹患率は9.0%になっています。

年齢は20～50歳代に多く、男女比は2～4:1と男性に多く見られます。

以前は腎・尿管にできる上部尿路結石と膀胱・尿道にできる下部尿路結石はほぼ同比率でしたが、現在ではほとんどが上部尿路結石です。(図1)

尿管結石は腎結石が落下してきたもので、痙攣発作、血尿のほか、悪心・嘔吐、腹部膨満、呼吸促迫などを伴うこともあります。

尿管には腎盂尿管移行部、総腸骨動脈交叉部、膀胱尿管移行部の3ヶ所の生理的狭窄部位があり、結石が通りにくい場所と言われています。(図2)

治療としては小さいものは経過観察されますが、大きいものは体外衝撃波や内視鏡による碎石術が行われます。

尿路結石の予防には十分な水分摂取とバランスの良い食生活、適度な運動が重要です。

全尿路結石に占める上部尿路結石比率の年次推移

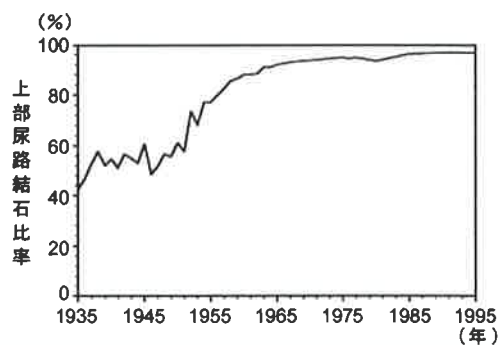


図1

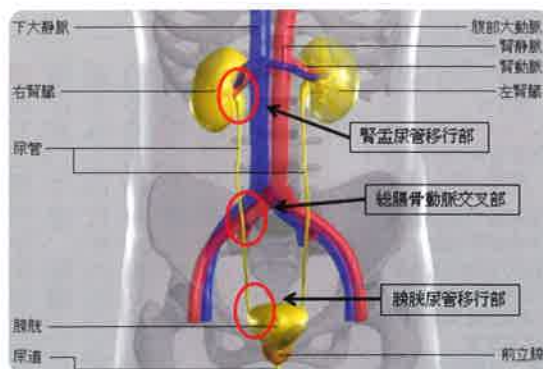


図2

シリーズ腎臓は今回で終わります。

NST(栄養サポートチーム)の紹介

NSTとは、Nutrition Support Teamの頭文字をとった略称です。食欲不振、嚥下障害など栄養状態に問題のある患者様に対して様々な専門スタッフが連携し、それぞれの知識や技術を出し合い、最良の方法で栄養支援をするチームです。当院でも、2004年4月から活動を始め、現在、日本静脈経腸栄養学会(2005年11月～)と日本栄養療法推進協議会(2006年9月～)の施設認定を受けています。今年度より嚥下チームが回診に同行するようになりました。



現在の活動

1. NST回診：褥瘡(床ずれ)回診も同時に(毎週金曜日1回)
 2. NSTミーティング(毎月第1金曜日1回)
 3. NST勉強会(1～2ヶ月に1回)
 4. 学会発表(毎年1回)
 5. NSTへのサポート依頼(随時)
- 当院のNSTでは随時全職員よりサポート依頼を受け付けています。

嚥下障害とは

歳をとるとともに身体の動きが鈍くなるのと同様に摂食・嚥下機能(食べる機能や飲みこむ機能)も次第に低下します。また脳梗塞などの病気によっても摂食・嚥下障害がおこる場合があります。嚥下障害は窒息や肺炎、脱水、低栄養

さらには食べる楽しみの喪失などの問題を抱えます。しかし、食べるリハビリとともに食べる食品の形に気をつけることでこのようなトラブルを防ぐこともできます。当院では耳鼻科用(細い)の内視鏡を用いて嚥下状態を見る検査(VE)も行っています。

地域の施設様等からの御相談も大歓迎です。

おめでとうございます!

平成24年度 兵庫県薬事功労者表彰

当院の金啓二薬剤部長が永年にわたる薬事衛生に関する功績により、兵庫県の薬事功労者として表彰されました。

兵庫県薬事功労者表彰





あさひの仕事人 vol.3

「あさひの仕事人」は病院で働くさまざまな職種について紹介するシリーズです。

神経内科医 Neurologist

神経科は、中枢神経（脳や脊髄）、末梢神経、筋肉・自律神経に異常があったり、全身的な疾患によって起る頭痛、めまい、しびれ、ふるえ、まひ、歩きにくさ、意識障害、物忘れ、けいれんなどの症状を総合的に診断し内科的に治療する科です。

日本神経学会のホームページでは、神経内科専門医が公開されており、2012年10月現在、兵庫県では134名（神戸市内57名）が認定されています。

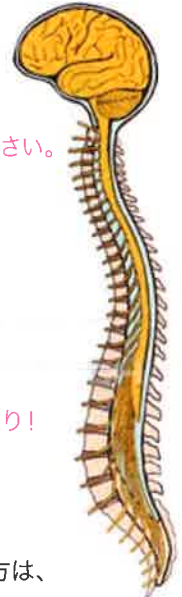


神経内科 部長
平川 誠

金沢医科大学 昭和63年卒
●日本神経学会 専門医
●日本内科学会 認定医
●医学博士

7月から当院に勤務されている平川先生にインタビューしました。

- Q** 神戸朝日病院に着任されて約3カ月ですが、当院の印象をお聞かせ下さい。
- A** 働きやすい職場だと思います。
- Q** 神経内科が、どういう疾患を診るのかよくわからない方も多いと思います。神経科という呼び方が精神科と混同されることがあると思いますが、神経内科について簡単に教えてください。
- A** 脳神経、筋疾患を専門とする内科の一分野です。
- Q** いろいろな分野がある中で、先生が神経内科医となられたきっかけと、特にご専門とされている疾患を教えてください。
- A** これといったきっかけはありません。専門は脱髄性疾患です。
- Q** 医師として特に注意されていること、大切にされていることはありますか。
- A** 病気は医師が治すものでなく、患者さん自身の治癒力によるものです。
- Q** 当院では、新しく採用になった職員に、この質問をしています。年末ジャンボで1億円が大当たり！先生なら、何に使われますか。
- A** 全部貯金です。
- Q** 神戸朝日病院の患者さまに一言メッセージをお願いします。
- A** 皆さまどうぞよろしくお願ひします。「しびれ」や「めまい」「頭痛」などの症状にお困りの方は、一度ご相談下さい。



当院では、これまで神経内科の専門外来は、月2回のみでしたが、7月から毎週火曜日、木曜日の午前診、金曜日の夜間診にも平川先生が外来を行っています。

編集後記

秋も深まり朝夕は冷え込む日が多くなってきました。寒くなるとインフルエンザをはじめとする風邪のウイルスの流行が始まります。風邪の流行にそなえて外出した後の「手洗い」「うがい」を心がけましょう。インフルエンザの流行は1月上旬から3月上旬が中心です。ワクチンを接種しても効果が出現するまでに2週間程度かかるので毎年12月中旬までにワクチン接種を受けることが望ましいと言われています。当院でもワクチン接種を実施しています。
(医療情報部 谷口)



健康いきいきサロン「めまいと頭痛について」(2012年9月)

